

令和6年度学校評価報告書

北海道上富良野高等学校長
森 雅 義

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 学校教育目標

未来社会を生き抜く自立した人間の育成

2 スクール・ミッション

- 地域との連携・協働等を通じて、地域の課題に向き合い、解決するために必要な資質・能力を身に付けた生徒の育成
- 個々の生徒の特性等に対応した学習指導及びキャリア教育を通じて、自己実現のために努力する生徒の育成

3 スクール・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

- 自律する力・・・ルールやマナーを正しく理解し、自分から守ることができる力
- つながる力・・・自分や他者を理解し、思いやりをもって他者や地域とつながる力
- 行動する力・・・強くしなやかな心と身体を持ち、自分の考えで行動する力
- 考える力・・・社会に必要な知識、技能を身につけ、課題を解決する力
- 表現する力・・・身につけた知識、技能を使って他者に自分の考えを伝え、対話する力
- 挑戦する力・・・達成感を積み重ねて自信を持ち、積極的に新たなことに取り組む力

4 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・年度初めにシラバスを配信。年間を見通した学習について指導することができた。 ・学校設定教科「地域探究」が完成年度となり、3年間のプログラムが固まり、全職員での指導体制ができてきた。 ・家庭学習の充実に関しては、保護者、教職員とも課題があると感じている。家庭学習の充実に向け生徒の学習環境を見直す必要性がある。 ・交通障害や法定伝染病等による欠席者に対して、オンラインによる授業を行うことができた。 ・学校だより、HPの更新など発信はさらなる工夫が必要である。	・個に応じた教育活動の充実を進めてほしい。 ・生徒個々の能力や個性に応じた教育活動がなされていると思う。 ・学習意欲の向上など昨年より達成状況が上回る所が各所に見受けられるので改善の方策が効果的で良いと思う。 ・教育課程を工夫して、生徒も先生も余裕のある学校にしても良いのではないかと。
改善方策	・自らの将来に向け「主体的な学習」ができるよう、進路指導部とも連携して自習室の整備、放課後補習の場所や機器の整備等の学習環境の整備と生徒への働きかけをさらに進めていく。 ・長期入院生徒等に対するオンライン授業実施に関する校内規程を早急に整備する。 ・中学校への情報提供や公共施設への掲示などを進める。	
生徒指導	・いじめの認知件数は0件であったが、コミュニケーション力の低さやSNS上のトラブルなどいじめにつながりかねない事例はあった。 ・教職員間の情報共有は適切になされていた。 ・各行事や探究活動、学校外での発表等で自らを表現する機会を与えることができ、主体性や表現力の向上につながった。 ・いじめ撲滅宣言や校則の見直しなど自らの生活を主体的に考えさせることができた。	・様々な状況に応じて組織的な対応がおこなわれていると思う。 ・いじめの認知件数が0件と安心した。しかし、SNS上のトラブルはおそらく今後、時代と共に多くなると思う。これからは道徳的な意識の向上に力を入れて防いで欲しいです。 ・SNS上のトラブルは中学校でも聞く様になった。継続的な指導が必要。

改善方策	・いじめアンケートをもとに生徒と面談ができるよう計画的に実施する。SNSの使用についても講話等を実施し適切な使用になるよう指導する。 ・コミュニケーション力を高めるための職員研修をおこない生徒の支援につなげていく。 ・学校祭等、今年度内より計画を始め、生徒が主体的に活動できるよう指導する。	
進路指導	・地元企業の協力を得て、インターンシップや職場見学などの行事を実施することができた。 ・上級学校見学、3年生による進路体験発表、進学相談会への参加などにより進路意識の向上を図ることができた。 ・進学希望者へ模試講習を実施することができた。 ・進路学習室を新たに設置し、放課後の自習室とすることができた。	・更なる進路指導の充実強化をお願いする。特に、女子生徒の地元就職の支援が必要。 ・生徒個々の将来を見通した適切な指導がおこなわれていたと思う。 ・改善方策の中に、国立公立大学を目指す生徒への指導とある。組織的な取り組みをして実績が出てくるようにしてほしい。色々な形の将来が実現できるとよいと思う。 ・インターンシップが就職場所につながっていることは良いことである。
改善方策	・予定されていた行事等は概ね実施することができ、次年度も同様の取組を進めていく。 ・インターンシップは希望者に長期休業中に実施した。進路選択について考えさせるうえでも効果があり、次年度も実施する。 ・国立公立大学を目指す生徒への指導方法について、より効果的な形態を考える。	
健康・安全指導	・コミュニケーション力に課題のある生徒が増えており対応に苦慮する場面が多くあった。 ・ICTを活用した心の調査等できめ細やかな対応をおこない成果を残した。 ・教育的支援が必要な生徒に対してはサポート委員会を中心に支援をおこなうことができた。	・生徒の実態に応じた指導が計画的におこなわれていたと思います。 ・教育的支援が必要だと思いますが、人員の確保、人数も必要である。現場の先生達が対応しやすい環境になるよう道教委も考えて欲しい。
改善方策	・自己の健康や安全に対する意識向上は講話を始めとする教育活動の中で意識醸成を行ってゆく。 ・特別な支援が必要な生徒に対する支援はサポート委員会を中心に組織的にこなってゆく。 ・学校行事やHR活動でコミュニケーション力の育成を図る。	

【学校運営に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
【信頼される学校づくり】 スクール・ミッションやスクール・ポリシーに基づく学校運営について。 保護者・地域からの信頼度向上について。	・次年度に向け、スクール・ミッション、スクール・ポリシーの見直しをおこなうことができた。 ・PTA活動や探究発表会、授業公開週間等への保護者の参加も多く、教育活動の理解を進めることができた。 ・入学後の満足度は生徒や保護者とも満足を得ている。	・入学志望者増の取り組みを強化するために、特色ある学校運営教を進めてほしい。 ・教職員がワンチームとなって学校運営に当たっていると感じる。 ・生徒、保護者の評価がほぼ同じであり、入学後の満足度を得ているのは素晴らしい。 ・先生や学校の熱意が伝わっている様で良いと思う。 ・先生方のストレスが心配。先生数を増やすなど余裕のある学校経営が求められる。
改善方策	・新しいスクール・ミッション、スクール・ポリシーと教育活動を結びつけた教育活動を推進する。 ・地域探究などで地域の方の教育力を活用していき本校の教育内容を発信する。 ・学校だより等で更なる情報発信をおこなう。	